

西根地区における地域ぐるみの鳥獣被害対策

ステップ 1 相手を知る



研修を開催し、獣種ごとの生態や鳥獣被害対策の基礎知識を習得

ステップ 2 自分達を知る



ほ場や地区内の環境点検を実施し、被害状況や侵入経路、鳥獣被害の原因となっている動物を特定

ステップ 3 対策を考える



放置果樹は確実に収穫する

畑周辺は入念に草刈り！

イノシシやクマ被害を取りまとめた出沒マップを作成し、被害を見える化することで、対策を具体的に検討

ステップ 4 実行する



住民が主体となり、対策を実行
出沒マップで定めた場所に電気柵を設置

住 地域ぐるみで行う対策の中心人物にインタビュー みやすい地域を目指して

住民が快適に住みやすい地域づくりに取り組むことが、そのまま鳥獣被害対策に繋がっていきます。

地域づくりと連携した取組みとして、地元の小学校でクマが出たときの身の守り方などを教える授業を行いました。地域ぐるみでの対策を進めていくには、ただ鳥獣被害への対策を進めるだけでなく、こうした取組みを通じて地域全体で鳥獣被害への危機感を共有し、協力してもらうことが必要です。

今後は鳥獣被害を減らすだけでなく、捕まえた鳥獣をジビエなどで有効活用できるよう検討していきたいです。



西根地区環境整備促進協議会 前会長 芳賀 泰典さん
西根コミュニティセンター 館長 高橋 順一さん
(上の写真は、西根地区の農地を背景に撮影)



小学校での授業の様子

【地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業に関するお問い合わせ】

山形県農林水産部農村計画課、または各総合支庁産業経済部農業振興課まで

県ホームページは
こちら→



地域ぐるみの鳥獣被害対策により

住みやすい地域へ

にしね
長井市西根地区

年々増加するイノシシやクマの被害
長井市の西部に位置する西根地区は、地区を通る県道に境に標高差があるのが特徴だ。道路の西側には中山間地が、東側には比較的平坦な農地が広がっている。
地区では中山間地で栽培している飼料用とうもろこしを中心にクマやイノシシによる農作物被害が増加し、問題となっていた。特に近年は、人家の近くに出没するようになったため、農家だけでなく、住民全体が鳥獣被害に対して危機感を募らせていた。
地域一丸の取組みで被害を食い止める
イノシシやクマの被害を食い止める活動について、多面的機能支払交付金の活動組織や中山間地域等直接支払交付金の集落協定、環境整備促進協議会などの組織の中では、農家の取組みだけでは限界があると感じていた。そこで、以前よりわな設置等の対策を行っていた猟友会と共に、地域活動の中心となる「コミュニティセンター」に働きかけ、地域全体を巻き込んだ鳥獣被害対策の取組みが始まった。
対策の実施にあたっては、県の「地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業」を活用。西根地区では、中山間地を「里山」、平野部を「里」と位置づけ、里山では農地の被害を最小限にすること、里ではイノシシやクマが人家付近に近づかないようにすることを目標に対策を行っている。

地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業とは

鳥獣被害対策の専門家による指導・助言に基づく実践を通し、地域が主体となった総合的・継続的な鳥獣被害対策に取り組むことを支援するもの。

こうした被害対策を実践する地区を増やすとともに、優良な

取組事例を普及させるため、県では概要を HP で公開している。



やまがたアグリネット



↑作物がクマに食い荒らされた様子